

SWIFT— 転機となる DLT の実証実験を完了

過去最大のハイパーレジャーを実装する実証実験

SWIFT は預け勘定照査分野でブロックチェーンを活用した実証実験を完了しました。

SWIFT の最新の発表によると、リアルタイム流動性モニタリングと預け勘定の照合自動化に DLT を活用すると業務要件が満足でき、必要な情報量を処理できるということが実証実験を通じて判明しました。実証実験では次のことが可能になっています。

- リアルタイムでの入出金の管理
- 取引状況の通知
- 完全な監査証跡
- 予想および資金化済残高の可視化
- リアルタイムでの口座入出金コンファメーション
- ペンディング中の取引、関連の事情の確認
- 当局報告用データの生成

SWIFT の研究開発部門長である **Damien Vanderveken** 氏は次のように語っています。「実証実験の結果は大変良好で、ハイパーレジャーと DLT を活用して大変有効な結果ができました」

業務要件を満たす結果であるとともに、実証実験では業界にとって必要となる前提条件も十分に対応が可能であることが証明されました。例としては口座入出金報告などがバッチ処理からリアルタイムへ変更することや業務システムがリアルタイム対応ができるよう対応する部分などです。

Vanderveken 氏は次のように加えました。「実証実験は預け勘定の流動性管理と照査に改善をもたらすことを示しましたが、そのメリットを生かすためには DLT プロセスへの移行によるいくつかの前提条件が必要であることも判明しました」

報告によると SWIFT はコミュニティがリアルタイムによる流動性レポートと SWIFT **gpi** に移行することで預け勘定のプロセスの改善につながるとしています。また各取引がユニークに確認できることはあらゆる流動性および照査のためのソリューションに有効となるとしています。**gpi** に伴い導入された送金の状況追跡を可能にするレファレンスの **UETR** の再利用が、明らかにその有力候補となるでしょう。

Vanderveken 氏は以下のように述べました。「実証実験では実用上大規模でミッションクリティカルな環境で利用できるまでに至るには DLT 技術について更なる進捗が必要です。例えば実証実験では預け勘定のオーナーとサービス提供側のためには 528 チャンネルだけを必要としていましたが、全ての預け預かりの関係を対象にソリューションとして製品化するには、100,000 チャンネル以上を必要とするでしょう。これは相当な業務上の変更になります」

SWIFT の **Chief Platform Officer** である **Stephen Gilderdale** は 新技術に関して次のように述べています。「SWIFT が主要なソリューションである **gpi** に関連して DLT のような新しい技術に取り組むことは戦略的な優先課題です。我々は実証実験を終え、今後も研究開発を進めて SWIFT のカスタマーが既存の SWIFT 基盤への接続を活用してブロックチェーンサービスを利用できるよう努めてまいります。SWIFT 自身または第 3 者からの提供のどちらでも安全で信頼できる基盤を通じて提供します」

SWIFT が提供した開発環境には 34 銀行が参加しました。この取り組みはブロックチェーンを活用した実証実験としてはその規模と参加者の数という観点で過去最大のものでありました。

発表と報告書の詳細は“ここ”をクリックしてください。